



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月12日

上場会社名 株式会社デジタルメディアプロフェッショナル 上場取引所 東
 コード番号 3652 URL https://www.dmprof.com
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (兼) 社長CEO (氏名) 山本 達夫
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 企画管理管 (氏名) 大澤 剛 TEL 03 (6454) 0450
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	402	△45.6	△241	—	△240	—	△240	—
2025年3月期第1四半期	740	5.9	64	114.4	63	93.4	59	124.0

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 △241百万円 (—%) 2025年3月期第1四半期 64百万円 (140.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	△76.48	—
2025年3月期第1四半期	18.81	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	3,735	3,369	90.2
2025年3月期	4,092	3,611	88.2

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 3,369百万円 2025年3月期 3,611百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,250	5.6	20	△92.5	25	△90.8	20	△87.3	6.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期1Q	3,152,400株	2025年3月期	3,152,400株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	7,240株	2025年3月期	7,240株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期1Q	3,145,160株	2025年3月期1Q	3,145,160株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
3. その他	8
(1) 最近における四半期毎の業績の推移	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用の改善等により、景気は緩やかに回復しました。しかし、円安の継続、物価やエネルギーコストの高騰等が経済、国民生活に影響を与えるとともに、米国の通商政策の影響による下振れリスクが高まっています。また、世界の景気も通商政策が与える影響の広がりによる下振れリスクに留意が必要です。

当社グループの属する半導体業界では、2023年に底打ちした市場を生成AI（人工知能）向け需要が牽引しています。中期的にも、あらゆるモノがインターネットにつながるIoTやAI、ビッグデータ、次世代高速通信規格、自動運転向け等の需要拡大が見込まれます。

当社グループの事業領域であるAI/ビジュアル・コンピューティング分野においては、少子高齢化に伴う労働人口の減少、気候変動等の社会・環境課題の解決や安全安心社会の実現に向けたイノベーションの加速やAIの果たす役割の増大が予想されます。

このような環境下において、当社グループは、「Making the Image Intelligent」というパーパスのもと、当社の創業来の強みである画像インテリジェンス（画像の知能化）の力で現実世界の問題を解決し、ステークホルダーに価値をもたらす革新的な製品とサービスを創造することに取り組んでいます。アミューズメント分野およびIP分野の安定成長による確固たる事業基盤のもと、エッジAI半導体事業およびFA事業の2本の新たな成長エンジンにより、中期的な収益拡大、企業価値向上を目指します。アルゴリズム、ソフトウェアから、当社の強みであるハードウェアまでの一貫開発体制をもって、IPコアライセンス事業、製品事業、プロフェッショナルサービス事業を展開し、企画から量産までの顧客製品・サービスの開発ライフサイクル全体に付加価値を提供することで、LTV（顧客生涯価値）の最大化を図ります。

当第1四半期連結累計期間は、戦略的開発投資を実行し、事業構造転換を加速しています。注力分野における具体的な取り組みと成果としては、ロボティクス・セーフティ分野において、安全運転支援向けとしてエッジからクラウドに亘る既存プロジェクトからのリカーリング収益を獲得するとともに、自律走行ロボット（AMR）向けのプロフェッショナルサービスを提供しました。また、資本業務提携先のCambrian社のピッキングロボット向けビジョンシステムは、その透明パーツ、光沢パーツの認識精度や外乱光等の環境変化へのロバスト性の競争優位性が評価され、製品納入や商談が進捗するとともに、各種展示会への出展によるリード獲得を推進しました。更には、2025年4月に事業を開始したFA事業において、AMRメーカー向けにコンポーネントを販売するとともに高確度の商談が進捗するなど、立ち上がりは順調です。また、生成AI（LLM：大規模言語モデル）技術を活用した先進安全システムの実用化の第一弾として、西尾レントオール株式会社との協業で、迷惑スケートボーダーを検知する「AI スケートボーダー検知システム」を開発し、2025年10月に販売が開始される予定です。

アミューズメント分野においては、スマートパチスロを含むパチスロやパチンコ向けに画像処理半導体「RS1」の量産出荷を継続するとともに、引き続きこのユニークな2D・3D統合チップの優位性を発揮できる市場セグメントにおけるシェア拡大を目指しています。

その他の取り組みとして、次世代エッジAI半導体「Di1」は、2025年5月開催のComputex Taipei 2025にて世界初公開しました。2026年3月期第4四半期の量産出荷に向けて、監視カメラ、ドローンをはじめとした各種アプリケーション市場において拡販活動を行っています。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、製品事業において画像処理半導体「RS1」の量産出荷を継続するとともに、CambrianビジョンシステムやFA製品を出荷しました。アミューズメント分野では、パチスロの保通協（保安通信協会）等による検定試験の適合率が低調に推移していることを主要因として、「RS1」の量産出荷も一時的に弱含みとなりましたが、今後遊技機メーカーの有力機種が投入されることから、下期にかけて回復見込です。IPコアライセンス事業においては、AI/GPUランニングロイヤリティ収入、セーフティ分野におけるリカーリング収益、並びにメンテナンスサポート収入を計上しました。また、プロフェッショナルサービス事業において、AMR向け受託開発サービスを提供しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は402百万円（前年同期比45.6%減）、営業損失は241百万円（前年同期営業利益64百万円）、経常損失は240百万円（前年同期経常利益63百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は240百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純利益59百万円）となりました。なお、当第1四半期連結累計期間に、戦略的投資として次世代エッジAI半導体「Di1」の開発費134百万円を計上しています。

当社グループは、単一セグメントであるためセグメント別の記載はしていませんが、事業別業績の概要は以下のとおりです。

① IPコアライセンス事業

デジタルスチルカメラ、4Kテレビ、OA機器等のデジタル機器向けAI/GPUランニングロイヤリティ収入に加え、ロボティクス・セーフティ分野におけるリカーリング収益、並びにメンテナンスサポート収入の計上により、売上高は27百万円（前年同期21百万円）となりました。

② 製品事業

「RS1」の量産出荷に加えて、Cambrianビジョンシステム、FA製品等の売上の計上により、売上高は373百万円（前年同期711百万円）となりました。

③ プロフェッショナルサービス事業

AMR向けの受託開発サービスの提供等により、売上高は1百万円（前年同期7百万円）となりました。

また、分野別業績の概要は以下のとおりです。

① ロボティクス・セーフティ分野

主に、IPコアライセンス事業におけるリカーリング収益およびメンテナンスサポート収入、製品事業におけるCambrianビジョンシステム、FA製品等の売上の計上により、売上高は26百万円（前年同期15百万円）となりました。

なお、当分野につきましては、2025年3月期までは「セーフティ分野」、「ロボティクス分野」に分けていましたが、協働ロボットやAMRを例に見てもロボティクス技術の進化と社会実装が進むほど、人・モノとの接触やそのリスクを検知するセーフティ技術が重要となっていることに加えて、当社の事業の方向性も踏まえ、2026年3月期より両分野を統合し、「ロボティクス・セーフティ分野」と呼称することとしました。

② アミューズメント分野

主に、「RS1」の量産出荷売上の計上により、売上高は354百万円（前年同期710百万円）となりました。

③ その他分野

主に、IPコアライセンス事業におけるデジタル機器向けAI/GPUランニングロイヤリティ収入およびメンテナンスサポート収入の計上により、売上高は22百万円（前年同期15百万円）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は2,929百万円となり、前連結会計年度末に比べ368百万円減少しました。主な変動要因は、現金及び預金が143百万円および売掛金及び契約資産が245百万円減少したことによるものであります。また、固定資産は806百万円となり、前連結会計年度末に比べ11百万円増加しました。主な変動要因は、無形固定資産に含まれるソフトウェア仮勘定が16百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債および固定負債は合計で365百万円となり、前連結会計年度末に比べ115百万円減少しました。主な変動要因は、買掛金が63百万円、未払法人税等が12百万円およびその他に含まれる未払金が32百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は3,369百万円となり、前連結会計年度末に比べ241百万円減少しました。主な変動要因は、利益剰余金が240百万円減少したことによるものであります。

これらの結果、自己資本比率が90.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月13日に公表いたしました2026年3月期の通期連結業績予想に変更はありません。

2026年3月期は、中期ビジョンである2030年3月期売上高80億円の達成に向けた変革期として、戦略的投資による事業構造の転換を加速します。

当第1四半期連結累計期間においては、期初の想定通り、パチスロの保通協等による検定試験の適合率が低調に推移していることにより「RS1」の量産出荷も一時的に弱含みとなりましたが、下期にかけて各種遊技機メーカーの有力な新機種の出荷が控えていることから、通期では「RS1」の量産出荷の回復を見込んでいます。

なお、実際の業績につきましては、今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,529,833	2,386,691
売掛金及び契約資産	411,881	166,784
有価証券	200,000	200,000
商品及び製品	45,490	35,381
仕掛品	2,585	5,607
原材料及び貯蔵品	51,365	61,951
その他	56,676	72,651
流動資産合計	3,297,832	2,929,068
固定資産		
有形固定資産	40,371	38,799
無形固定資産	162,416	178,742
投資その他の資産		
投資有価証券	536,318	535,022
その他	55,489	53,494
投資その他の資産合計	591,807	588,516
固定資産合計	794,595	806,058
資産合計	4,092,428	3,735,126
負債の部		
流動負債		
買掛金	310,566	247,459
未払法人税等	19,076	6,419
製品保証引当金	319	—
その他	131,890	92,490
流動負債合計	461,851	346,369
固定負債		
資産除去債務	18,460	18,528
その他	633	582
固定負債合計	19,093	19,110
負債合計	480,945	365,479
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,838,882	1,838,882
資本剰余金	1,858,093	1,858,093
利益剰余金	△86,698	△327,249
自己株式	△2,016	△2,016
株主資本合計	3,608,261	3,367,710
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	△1,108
為替換算調整勘定	3,221	3,044
その他の包括利益累計額合計	3,221	1,935
純資産合計	3,611,482	3,369,646
負債純資産合計	4,092,428	3,735,126

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	740,262	402,689
売上原価	421,903	260,734
売上総利益	318,359	141,954
販売費及び一般管理費	253,616	383,831
営業利益又は営業損失(△)	64,742	△241,876
営業外収益		
受取利息	1,307	1,700
雑収入	—	295
営業外収益合計	1,307	1,995
営業外費用		
為替差損	2,547	139
雑損失	9	—
営業外費用合計	2,557	139
経常利益又は経常損失(△)	63,493	△240,020
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	63,493	△240,020
法人税、住民税及び事業税	4,372	572
法人税等調整額	△51	△51
法人税等合計	4,320	520
四半期純利益又は四半期純損失(△)	59,172	△240,541
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	59,172	△240,541

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	59,172	△240,541
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,240	△1,108
為替換算調整勘定	△298	△177
その他の包括利益合計	4,941	△1,285
四半期包括利益	64,114	△241,826
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	64,114	△241,826
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社グループの事業は、IPコア等の開発・製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	9,179千円	4,667千円

3. その他

(1) 最近における四半期毎の業績の推移

2026年3月期

(単位：千円)

	第1四半期 2025年4月～ 2025年6月	第2四半期 2025年7月～ 2025年9月	第3四半期 2025年10月～ 2025年12月	第4四半期 2026年1月～ 2026年3月
売上高	402,689	—	—	—
売上総利益	141,954	—	—	—
営業損失(△)	△241,876	—	—	—
経常損失(△)	△240,020	—	—	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△240,020	—	—	—
四半期純損失(△)	△240,541	—	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△240,541	—	—	—
四半期包括利益	△241,826	—	—	—
1株当たり四半期純損失(△)	△76.48円	—	—	—
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
総資産	3,735,126	—	—	—
純資産	3,369,646	—	—	—
1株当たり純資産	1,071.38円	—	—	—

2025年3月期

(単位：千円)

	第1四半期 2024年4月～ 2024年6月	第2四半期 2024年7月～ 2024年9月	第3四半期 2024年10月～ 2024年12月	第4四半期 2025年1月～ 2025年3月
売上高	740,262	794,976	671,629	870,852
売上総利益	318,359	332,321	288,327	384,275
営業利益又は営業損失(△)	64,742	79,826	△22,790	143,776
経常利益又は経常損失(△)	63,493	79,793	△21,522	149,965
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	63,493	79,793	△21,522	107,418
四半期純利益又は四半期純損失(△)	59,172	62,217	△20,617	56,350
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	59,172	62,217	△20,617	56,350
四半期包括利益	64,114	53,038	△12,927	49,411
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失(△)	18.81円	19.78	△6.56	17.92円
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
総資産	3,929,870	4,022,238	4,153,158	4,092,428
純資産	3,521,958	3,574,997	3,562,070	3,611,482
1株当たり純資産	1,119.80円	1,136.67円	1,132.56円	1,148.27円